

取扱説明書

右記警告サインの意味をご理解の上、取扱説明書をお読みください。

警告 指示に従わない場合は死亡、または重度の障害を負う可能性があります。

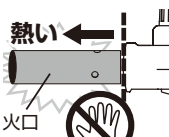
注意 指示に従わない場合は軽傷、または他の財物の損傷を引き起こす可能性があります。

生ガス=気化していない白い霧状のガス

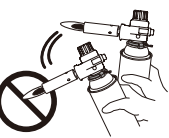
■使用上の注意

警告

- ① 周囲を確認し、安全を確保してから使用してください。
- ① 換気の十分な場所で、燃えやすいものや熱に弱いものからは十分に離れて使用してください。
- ① 容器(ボンベ)は正しく取り付けてください。取り付けが不十分だとガス漏れの原因となります。
- ① 点火時および使用中は、火口を人体に向けて中をのぞきこんだりしないでください。
- ① 火のついた状態で持ち運んだり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ① 火のついたまま容器(ボンベ)を取り外したり放り投げたりしないでください。やけどや事故の恐れがあります。
- ① 使用中および使用直後は火口、火口付近に可燃物を近づけたり手を触れたりしないでください。大変高温のため、やけどの危険があります。消火後もしばらくは熱くなっていますので注意してください。
- ① 使用中および使用後に振り回したりしないでください。本体が外れ、事故ややけどの原因となります。
- ① 落下したり、強い衝撃が加わった際は使用しないでください。ガス漏れや破損の恐れがあります。
- ① ご使用の際は、必ず容器(ボンベ)を手にとって使用してください。他のものに固定したり、置いたまま使用すると輻射熱で容器(ボンベ)が過熱し、非常に危険です。
- ① 炭の火起しの際に火口先端で炭を動かしたりしないでください。ボンベホルダーが回転し、本体が外れる恐れがあり、大変危険です。
- ① 炭に火がついたらすぐに消火し、火元から離して置いてください。本体樹脂部が加熱され、破損する恐れがあります。
- ① 一人で複数台を手に持ち使用しないでください。やけどや事故の原因となります。
- ① 風の強い時は使用しないでください。
- ① ご使用の際は、火の元に十分注意してください。
- ① ご使用時以外は常にハンドルを閉じ、容器(ボンベ)を取り外してください。ガスが漏れ大変危険です。
- ① お子様の手の届かない場所に保管してください。
- ① お子様には使用させないでください。
- ① 使用しない場合は必ずボンベから取り出し、箱や袋に入れて保管ください。
- ① 改造や分解をしないでください。
- ① 使用時、使用後は樹脂製バルブカバーやボンベホルダー周辺が熱くなる恐れがあります。やけどに注意してください。
- ① オープンなどの機器に取り付けて使用しないでください。当社が製造・販売するガストーチを、他社が製造・販売する器具や筐体に組み込んだり、固定して使用しないでください。一酸化炭素中毒などの重大事故発生の可能性があり、とても危険です。



火口に触れない!



火口で炭に触れない!

- ① 容器(ボンベ)に表記されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
- ① 容器(ボンベ)を保管する際は、キャップをつけて火気や直射日光(室内や車内の窓際など)を避けて風通しの良い、湿気の少ない40℃以下の場所に保管してください。
- ① 容器(ボンベ)に強い衝撃を与えないでください。破損しガス漏れの原因となります。
- ① 容器(ボンベ)をファンヒーターの前など熱気のあたる場所に放置しないでください。熱で容器(ボンベ)の圧力が上がり爆発する危険があります。
- ① 容器(ボンベ)を火の中に投入しないでください。爆発して危険です。
- ① 保管してある容器(ボンベ)は、時々点検をしてください。錆が発生している場合は使用しないでください。
- ① 容器(ボンベ)に異常がある場合は使用を中止してください。



■使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

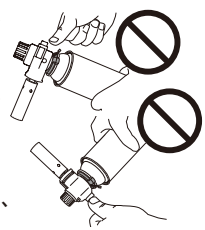
警告

- ① 容器(ボンベ)を振ってサラサラ音がする場合は、まだガスが残っています。ガスが残っている状態で温度の高い場所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。
- ① 容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと区別して処分してください。各自治体の処理方法に従って処分してください。

■使用時の注意点

注意

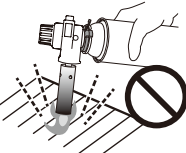
- ① 使い始めの容器(ボンベ)を使用する時や35℃以上の高温時には生ガスが出やすくなりますので注意してください。
- ① 点火は容器(ボンベ)を手で固定しながら水平な場所に置き、直立状態で行ってください。本体を傾けた状態で点火すると、生ガスが大きく燃え上がり危険です。
- ① 生ガスが出たときは点火操作を行わないでください。生ガスに点火すると赤い炎が大きく燃え上がり、やけど、火災の危険があります。
- ① 生ガスが出た場合は一度ハンドルを閉じ、ガスが出る量を少量にして生ガスが出ないことを確認してから点火してください。
- ① 5分以上の連続使用はしないでください。故障ややけどの原因になります。
- ① 火口を真下に向けて使用する場合は3分間以上の連続使用をしないでください。火口から炎や熱気が本体にかかり、破損する恐れがあります。
- ① 使用時は対象物に近づけすぎないでください。輻射熱により本体の破損や点火ケーブルの被覆が破損し、点火できなくなります。
- ① 使用後、火口を水につけないでください。急冷すると点火装置が破損する恐れがあります。
- ① 生ガスが出ている状態で燃焼を続けると樹脂製バルブカバー内に生ガスが流れ込み、引火・やけど・火災の恐れがあり、大変危険です。
- ① 夏季などの気温が高いときはボンベ内部の圧力が上がりガスが出る勢いが強すぎて点火しにくくなります。



傾けて点火しない!



生ガスに点火すると赤い炎が大きく燃え上がり危険です。



■使用容器(ボンベ)の取扱上の注意

警告

- ① 容器(ボンベ)は新富士バーナー専用、SOTO製品専用の容器(ボンベ)(カセットガスタイプ)を必ず使用ください。
ST-760、ST-700、ST-712、
ST-711、GT-760、GT-700、
RZ-760

絵表示について
次のような意味があります。



禁止事項



必ず行う事項

■使用方法

＜1＞容器(ボンベ)の取り付け

- ① 容器(ボンベ)が直立状態で取り付け、しっかり固定されていることを確認してください。
- ② 周囲に火気がないことを確認してください。
1. ハンドルをOFFの方向へ回し、完全に閉じていることを確認します。この時ハンドルを必要以上にきつく締めないでください。
2. ボンベホルダーのガイド(凸部)が所定の位置(左側に止まるまで回した位置)にあることを確認します(図1)。
3. 容器(ボンベ)の切り込み部を、ガイド(凸部)に合わせ(図2)、ボンベへ押しつけながら本体を右方向に止まるまで約60度回します(図3)。
4. ガイド(凸部)が本体の真後ろにあることを確認します(図4)。
5. 本体の回転防止のため、上向きになっている固定バネ(図5)がガイド(凸部)を挟み込むように下げます(図6)。

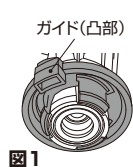


図1

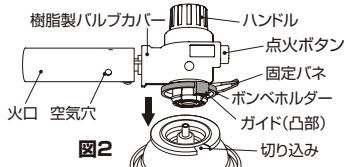


図2

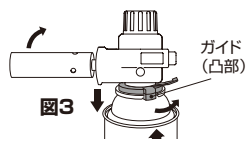


図3

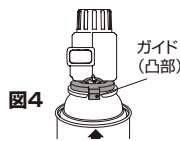


図4

本体真後ろの図

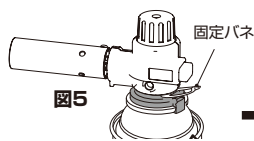


図5

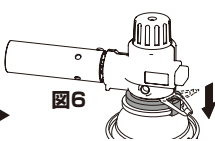


図6

※容器(ボンベ)取り付け時の注意

容器(ボンベ)取り付けの際はガイド(凸部)が、所定の位置(左側に止まるまで回した位置)にあることを確認してください。所定の位置以外にあると容器(ボンベ)の取り付けができません。

※ガス漏れに注意

容器(ボンベ)に取り付け後、容器(ボンベ)のガタつきや“シュー”というガス漏れの音や、ガスの臭気がないか確認してください。

＜2＞点火

1. 容器(ボンベ)を手で固定しながら水平な場所に置き、直立状態にします。
2. 容器(ボンベ)を手で固定しながらハンドルをONの方向にゆっくり回してガスを出し、点火ボタンを“カチッ”というまで押して点火して、青色の炎が出ることを確認します。

※ご使用の際は、必ず容器(ボンベ)を手にもって使用してください。

3. 点火しない場合は、点火ボタンを繰り返し押します。

※ガスを出しすぎると点火しにくいので、ガスの量を調整してください。

※生ガスが出たときは点火せず、一度ハンドルをOFFの方向に回し、再度ハンドルをONの方向に回して生ガスが出ないことを確認してから点火してください。

＜3＞プレヒート(予備加熱)

点火後約2分間は容器(ボンベ)を動かさないで、そのまま燃焼させてください。生ガスが出ることを防ぐためです。

※プレヒート(予備加熱)不十分の逆さ使用は、赤い炎が大きく燃え上がり、やけど、火災の危険があります。

※点火後約2分間のプレヒート(予備加熱)で連続約30秒間の逆さ使用ができます。使用条件により時間は異なります。

＜4＞火力調整

火力の調整は炎を確認しながらハンドルで調整します。

＜5＞消火

容器(ボンベ)を手で固定しながらハンドルをOFFの方向へ止まるまで回して閉じ、完全に消火したことを確認して作業を終了します。この時ハンドルを必要以上にきつく締めないでください。

※ボンベの取り外し方

容器(ボンベ)を取り付け時と逆の手順で取り外します。

本製品を安全に正しくお使いいただくために、
ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、この取扱説明書を大切に保管してください。

＜6＞本体の保管

- ① 使用しない場合は必ず、本体を容器(ボンベ)から取り外し、ハンドルをOFFの方向へ回して、完全に閉じていることを確認してから各部にゴミや水分・異物につかない湿気のない場所で箱または袋に入れて保管してください。

※そのまま放置すると虫や、ほこり等がガス通路に入り込み、異常燃焼や点火不良の原因になります。

■プレヒートは必ず行ってください



プレヒート(予備加熱)をしない状態で使用すると、生ガスが出やすくなります。生ガスが出ると下記(写真-1)のように赤く燃え上がり、やけど、火災の恐れがあります。点火後必ず2分間のプレヒートを行ってから使用してください。※点火後約2分間のプレヒートで連続約30秒間の逆さ使用ができます。使用条件により時間は異なります。



プレヒートを行う理由

プレヒート不十分の状態で使用した際、容器(ボンベ)内部の液体のガスがそのまま噴出し生ガスが出ます。生ガスを防ぐため約2分間のプレヒートを必ず行ってください。

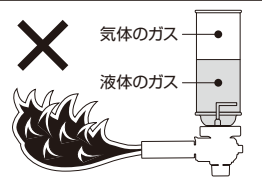
プレヒートをすることで(図-1)の斜線部を高温にし、液体のガスを強制的に気化させ、生ガス発生を防ぎます。(写真-2)

生ガスが出たときは点火せずに一度ハンドルをOFFの方向に回し、再度ハンドルをONの方向に回して生ガスが出ないことを確認してから点火してください。

プレヒート(予備加熱)が不完全な状態



写真-1



プレヒート(予備加熱)が完全な状態



写真-2

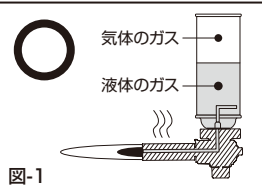


図-1

■点検手入れについて

- ① 日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- ① 点検、手入れは必ず容器(ボンベ)を取り外し、火口が完全に冷めてから行ってください。
- ① 故障、変形、破損があるものは絶対に使用しないでください。

ご使用になる前に必ず以下の点検を行ってください。

○点検方法

- ① バルブ内にOリング(リング状の黒いゴム)が2つ入っているか確認する。
- ① 点火ボタンを押したとき、火口の中で青い火花が飛びか確認する。
- ① 本体に汚れが目立つ場合には、乾燥した布等で拭き取ってください。
- ① 火口内部にゴミや異物、虫が入っていないことを確認してください。



Oリング

困ったときは

◎不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店又は新富士バーナー(株)お客様係フリーダイヤル 0120-75-5000までご相談ください。

ご使用前に
台紙中側の
取扱説明書を必ず
お読みください。

取扱
説明書